

二〇一五年度

開成中学校 入学試験

国語 - 解答 -

一問一 1 従事 2 動転 3 吸収 4 放 5 熟知

問二 ① エ ② 才

問三 もの言わぬ動物の気持ちを探るために、理解不能なふるまいを、からだ全体の感覚を動員してこまやかに受けとめなければならぬということ。

問四 両方の場とも処置される側のもの言わぬ弱者と、それを取り巻く側の強者の間には、弱者を中心とした強者側の強力な秩序が生まれ、見たくない現実を弱者にかぶせて目をそらすとする危険な構造がある。

二問一 父さんがくれた貯金箱にお金を貯めれば、息子は欲しいものは何でも手に入るとは思わなくなり、お金のありがたみを理解して成長するから。

問二 「父さん」 自分の意図どおり、息子が欲しいものを楽しんで手に入れようとする自らの甘い気持ちに打ち勝ち、お金のありがたみが分かるようになったと、満足して嬉しく感じている。

「ぼく」 父さんの言っている言葉の意味など重要ではなく、友だちであるマーゴリスが金づちで割られてしまうのを逃れるため、言葉だけを一生けん命発している気持ち。

問三 当初はあまり思い入れのない相手でも、よく観察するうちに相手の長所が見え、いつもそばにいたいと感じ、少しずつ相手の立場に立って相手の気持ちを思いやり、自分の幸せよりも相手の幸せを重んじること。